

## 令和4年度学校保健統計調査結果の概要（長崎県確定値）

長崎県県民生活環境部統計課

### 結果のポイント（全国平均との比較）

- 身長は男女ともほとんどの年齢で全国平均を下回っている。
- 体重は男子がほとんどの年齢で全国平均を下回っており、女子が6歳、9歳、11～17歳の各年齢で全国平均を上回っている。
- 肥満傾向児の割合は男子では8歳、10歳、13歳、16歳、17歳で、女子は6歳、11～17歳の各年齢で全国平均を上回っている。
- むし歯の者の割合は全年齢において全国を上回っている。
- 小学校の裸眼視力1.0未満の児童の割合は全国を下回っている。

### 1 調査の目的

学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的とする。

### 2 調査時期

学校保健安全法により、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの間に実施された健康診断の結果に基づき調査するもの。なお、令和4年度については、令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年4月1日から6月30日に実施される健康診断について当該年度末までに実施することとなったため、学校保健統計調査においても調査期間を年度末まで延長することとした。

このため、本集計結果は、成長の著しい時期において測定時期を異にしたデータを集計したものであり、過去の数値と単純比較することはできない。

### 3 調査の範囲・対象

- (1) 幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び幼保連携型認定こども園のうち、文部科学大臣があらかじめ指定する学校（以下「調査実施校」という。）（抽出調査）
- (2) 調査実施校に在籍する満5歳から17歳（令和4年4月1日現在）までの幼児、児童及び生徒。
- (3) 発育状態調査については、年齢別、男女別に対象者を抽出する。  
健康状態調査については、在学者全員を対象とする。  
詳細については下表のとおり。

学校種別	調査実施校数 (校)	発育状態調査		健康状態調査	
		対象者数 (人)	抽出率 (%)	対象者数 (人)	抽出率 (%)
幼稚園	31	1,017	18.8	1,293	23.9
小学校	59	5,479	8.1	23,648	34.8
中学校	39	4,300	12.1	14,148	40.0
高等学校	28	2,317	6.9	17,245	51.1

注) 幼稚園には幼保連携型認定こども園を、小学校・中学校には義務教育学校の該当年齢を含んでいる。

### 4 調査事項

- (1) 幼児、児童及び生徒の発育状態（身長、体重）
- (2) 幼児、児童及び生徒の健康状態（疾病・異常の有無）

## 5 凡例

- 「 」 は計数がない場合
- 「0.0」は計数が表示単位未満の場合
- 「…」は調査対象とならなかった場合
- 「X」は疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受験者数が100人（5歳は50人）未満、回答校が1校以下または疾病・異常被患率が100%のために統計数値を公表しない場合

## 調査結果の概要

### 1 発育状態

#### (1) 身長(長崎県平均値) (表1、図1・2)

男子の身長は、8～11歳、13～15歳の各年齢で前年度より高く、特に8歳、10歳で過去最高となっている。また、女子の身長は、6歳、9～11歳、13歳、17歳の各年齢で前年度より高く、特に6歳、9～11歳、17歳で過去最高となっている。

男子の各年齢の身長差は11～12歳の間(7.4cm)が最も大きく、16～17歳の間(0.2cm)が最も小さい。

女子の各年齢の身長差は10～11歳の間(7.3cm)が最も大きく、15～16歳の間(0.0cm)が最も小さい。

身長を30年前の平成4年度(親の世代)と比較すると、最も差がある年齢は、男子では12歳で親の世代より2.3cm高くなっており、女子では9歳で親の世代より2.4cm高くなっている。

表1 年齢別 身長の平均値 (単位: cm)

区 分		令和4年度 (A)	令和3年度 (B)	差(A-B)	平成4年度 (C)	差(A-C)		
男 子	幼稚園	5歳	110.1	<b>110.9</b>	-0.8	110.4	-0.3	
		6歳	116.5	116.7	-0.2	115.9	0.6	
	小学校	7歳	122.4	<b>122.7</b>	-0.3	121.9	0.5	
		8歳	<b>128.4</b>	128.2	0.2	127.4	1.0	
		9歳	133.8	133.1	0.7	132.7	1.1	
		10歳	<b>139.1</b>	139.0	0.1	138.1	1.0	
		11歳	145.5	145.3	0.2	144.0	1.5	
	中学校	12歳	152.9	153.0	-0.1	150.6	2.3	
		13歳	159.9	159.6	0.3	158.3	1.6	
		14歳	165.2	165.1	0.1	164.4	0.8	
		高等学校	15歳	168.6	168.3	0.3	167.9	0.7
			16歳	169.8	169.8	0.0	169.6	0.2
			17歳	170.0	170.7	-0.7	170.1	-0.1
	女 子	幼稚園	5歳	110.1	<b>110.6</b>	-0.5	109.2	0.9
			6歳	<b>116.2</b>	115.8	0.4	115.6	0.6
		小学校	7歳	121.6	121.7	-0.1	120.9	0.7
			8歳	127.8	<b>128.0</b>	-0.2	126.8	1.0
9歳			<b>134.8</b>	133.8	1.0	132.4	2.4	
10歳			<b>140.8</b>	140.5	0.3	139.4	1.4	
11歳			<b>148.1</b>	146.9	1.2	145.9	2.2	
中学校		12歳	151.6	151.6	0.0	151.2	0.4	
		13歳	154.7	154.4	0.3	154.3	0.4	
		14歳	156.1	156.1	0.0	156.5	-0.4	
		高等学校	15歳	156.9	157.0	-0.1	157.2	-0.3
			16歳	156.9	157.6	-0.7	157.5	-0.6
			17歳	<b>158.6</b>	157.5	1.1	157.5	1.1

- (注) 1. 年齢は各年4月1日現在の満年齢である。以下の各表において同じ。  
 2. **太字(二重下線)**の部分は、調査実施以来過去最高だったことを表す。  
 3. **太字(下線)**の部分は、調査実施以来過去最高と同じだったことを表す。

## (2) 体 重(長崎県平均値) (表2、図3・4)

男子の体重は、8～14歳で前年度より増加している。特に8歳、10歳、12～14歳で過去最高となっている。  
また、女子の体重は、6歳、9～13歳、17歳の各年齢で前年度より増加している。特に6歳、9歳～11歳で過去最高となっている。

男子の各年齢の体重差は、11～12歳の間(5.4kg)が最も大きく、16～17歳の間(0.4kg)が最も小さい。  
また、女子の各年齢の体重差は、10～11歳の間(5.8kg)が最も大きく、15～16歳の間(0.9kg)が最も小さい。

体重を30年前の平成4年度(親の世代)と比較すると、最も差がある年齢は、男子では12歳で親の世代より3.3kg重くなっており、女子では11歳で親の世代より3.1kg重くなっている。

表2 年齢別 体重の平均値 (単位：kg)

区 分			令和4年度 (A)	令和3年度 (B)	差(A-B)	平成4年度 (C)	差(A-C)
男 子	幼 稚 園	5 歳	18.8	19.2	-0.4	19.1	-0.3
		6 歳	21.6	<u>21.9</u>	-0.3	21.2	0.4
	小 学 校	7 歳	24.3	24.3	0.0	23.5	0.8
		8 歳	<u>27.9</u>	27.5	0.4	26.4	1.5
		9 歳	31.1	30.4	0.7	29.6	1.5
		10歳	<u>35.2</u>	34.8	0.4	33.2	2.0
		11歳	39.8	38.8	1.0	36.9	2.9
	中 学 校	12歳	<u>45.2</u>	44.8	0.4	41.9	3.3
		13歳	<u>50.3</u>	49.0	1.3	48.3	2.0
		14歳	<u>54.8</u>	54.0	0.8	53.4	1.4
	高 等 学 校	15歳	58.6	59.2	-0.6	58.1	0.5
16歳		61.8	62.5	-0.7	60.0	1.8	
17歳		62.2	63.6	-1.4	60.7	1.5	
女 子	幼 稚 園	5 歳	18.9	<u>19.4</u>	-0.5	18.7	0.2
		6 歳	<u>21.4</u>	21.3	0.1	20.8	0.6
	小 学 校	7 歳	23.7	23.9	-0.2	23.1	0.6
		8 歳	27.0	<u>27.3</u>	-0.3	26.2	0.8
		9 歳	<u>31.2</u>	30.5	0.7	29.1	2.1
		10歳	<u>35.1</u>	34.9	0.2	33.5	1.6
		11歳	<u>40.9</u>	39.8	1.1	37.8	3.1
	中 学 校	12歳	45.0	44.6	0.4	43.2	1.8
		13歳	48.0	47.3	0.7	47.1	0.9
		14歳	50.1	50.6	-0.5	50.2	-0.1
	高 等 学 校	15歳	51.8	52.1	-0.3	51.5	0.3
16歳		52.7	52.8	-0.1	52.0	0.7	
17歳		54.0	53.1	0.9	52.8	1.2	

(注) 1. 年齢は各年4月1日現在の満年齢である。以下の各表において同じ。

2. 太字(二重下線)の部分は、調査実施以来過去最高だったことを表す。

3. 太字(下線)の部分は、調査実施以来過去最高と同じだったことを表す。

図1 本県の幼児、児童、生徒の年齢別身長(男子)

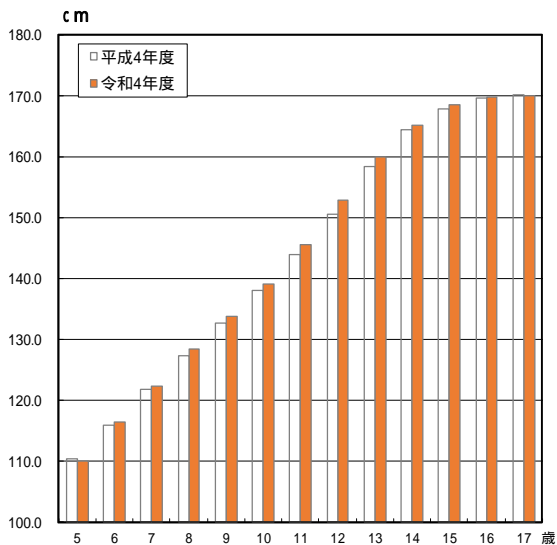


図2 本県の幼児、児童、生徒の年齢別身長(女子)

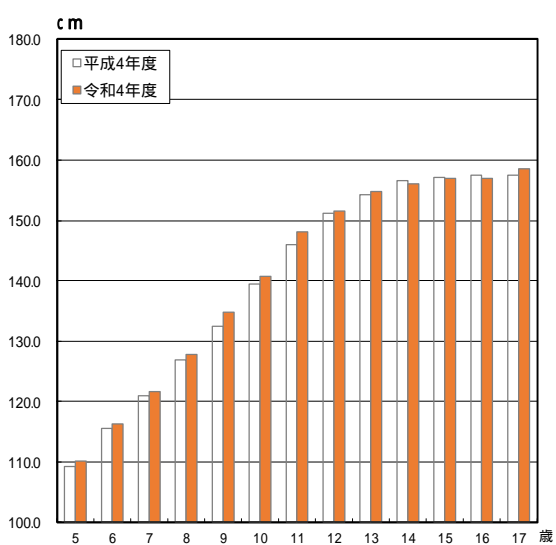


図3 本県の幼児、児童、生徒の年齢別体重(男子)

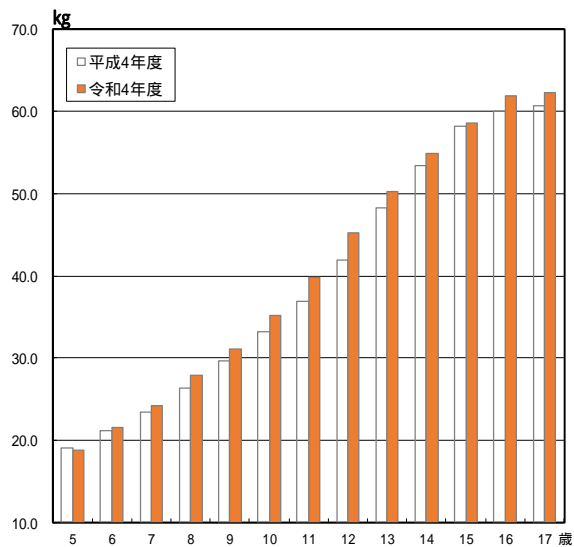
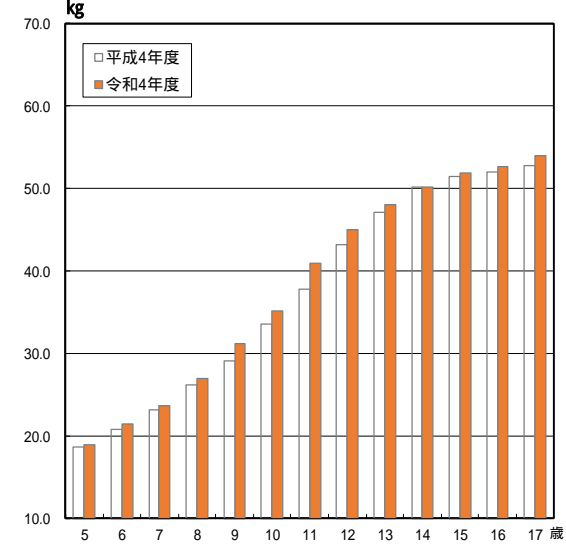


図4 本県の幼児、児童、生徒の年齢別体重(女子)



### (3) 全国との格差(表3)

全国平均と本県の体位差を比較すると、30年前の平成4年度(親の世代)では、男女ともほとんどの年齢で身長、体重のいずれも全国平均を下回っていた。

令和4年度をみると、身長は男女ともほとんどの年齢で全国平均を下回っており、体重は男子がほとんどの年齢で全国平均を下回っており、女子が6歳、9歳、11~17歳の各年齢で、全国平均を上回っている。

表3 全国との比較

#### (1) 身長

(単位:cm)

	年齢(歳)	令和4年度						平成4年度					
		男子			女子			男子			女子		
		全国	長崎県	差	全国	長崎県	差	全国	長崎県	差	全国	長崎県	差
幼稚園	5	111.1	110.1	-1.0	110.2	110.1	-0.1	110.8	110.4	-0.4	109.9	109.2	-0.7
小学校	6	117.0	116.5	-0.5	116.0	116.2	0.2	116.8	115.9	-0.9	115.9	115.6	-0.3
	7	122.9	122.4	-0.5	122.0	121.6	-0.4	122.5	121.9	-0.6	121.7	120.9	-0.8
	8	128.5	128.4	-0.1	128.1	127.8	-0.3	128.1	127.4	-0.7	127.4	126.8	-0.6
	9	133.9	133.8	-0.1	134.5	134.8	0.3	133.5	132.7	-0.8	133.2	132.4	-0.8
	10	139.7	139.1	-0.6	141.4	140.8	-0.6	138.7	138.1	-0.6	139.8	139.4	-0.4
	11	146.1	145.5	-0.6	147.9	148.1	0.2	144.6	144.0	-0.6	146.4	145.9	-0.5
中学校	12	154.0	152.9	-1.1	152.2	151.6	-0.6	151.9	150.6	-1.3	151.7	151.2	-0.5
	13	160.9	159.9	-1.0	154.9	154.7	-0.2	159.3	158.3	-1.0	155.0	154.3	-0.7
	14	165.8	165.2	-0.6	156.5	156.1	-0.4	165.0	164.4	-0.6	156.6	156.5	-0.1
高等学校	15	168.6	168.6	0.0	157.2	156.9	-0.3	168.2	167.9	-0.3	157.2	157.2	0.0
	16	169.9	169.8	-0.1	157.7	156.9	-0.8	170.0	169.6	-0.4	157.8	157.5	-0.3
	17	170.7	170.0	-0.7	158.0	158.6	0.6	170.7	170.1	-0.6	157.9	157.5	-0.4

#### (2) 体重

(単位:kg)

	年齢(歳)	令和4年度						平成4年度					
		男子			女子			男子			女子		
		全国	長崎県	差	全国	長崎県	差	全国	長崎県	差	全国	長崎県	差
幼稚園	5	19.3	18.8	-0.5	19.0	18.9	-0.1	19.3	19.1	-0.2	19.0	18.7	-0.3
小学校	6	21.8	21.6	-0.2	21.3	21.4	0.1	21.6	21.2	-0.4	21.1	20.8	-0.3
	7	24.6	24.3	-0.3	24.0	23.7	-0.3	24.2	23.5	-0.7	23.6	23.1	-0.5
	8	28.0	27.9	-0.1	27.3	27.0	-0.3	27.2	26.4	-0.8	26.6	26.2	-0.4
	9	31.5	31.1	-0.4	31.1	31.2	0.1	30.6	29.6	-1.0	30.1	29.1	-1.0
	10	35.7	35.2	-0.5	35.5	35.1	-0.4	34.2	33.2	-1.0	34.2	33.5	-0.7
	11	40.0	39.8	-0.2	40.5	40.9	0.4	38.2	36.9	-1.3	39.1	37.8	-1.3
中学校	12	45.7	45.2	-0.5	44.5	45.0	0.5	44.0	41.9	-2.1	44.3	43.2	-1.1
	13	50.6	50.3	-0.3	47.7	48.0	0.3	49.4	48.3	-1.1	47.8	47.1	-0.7
	14	55.0	54.8	-0.2	49.9	50.1	0.2	54.7	53.4	-1.3	50.5	50.2	-0.3
高等学校	15	59.1	58.6	-0.5	51.2	51.8	0.6	59.3	58.1	-1.2	52.2	51.5	-0.7
	16	60.7	61.8	1.1	52.1	52.7	0.6	61.4	60.0	-1.4	53.0	52.0	-1.0
	17	62.5	62.2	-0.3	52.5	54.0	1.5	62.8	60.7	-2.1	52.9	52.8	-0.1

#### (4) 肥満傾向児の割合(表4、図5)

本県の割合をみると、男子では、8歳、10～13歳、16～17歳の各年齢で、女子は11～12歳で10%を超えている。

男女ごとで肥満傾向児の割合を比較すると、7～11歳、13～17歳の各年齢で、男子が女子を上回っている。全国平均と本県の割合を比較すると、男子では、8歳、10歳、13歳、16～17歳の各年齢で、女子は6歳、11～17歳で全国平均を上回っている。

肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100 (\%)$$

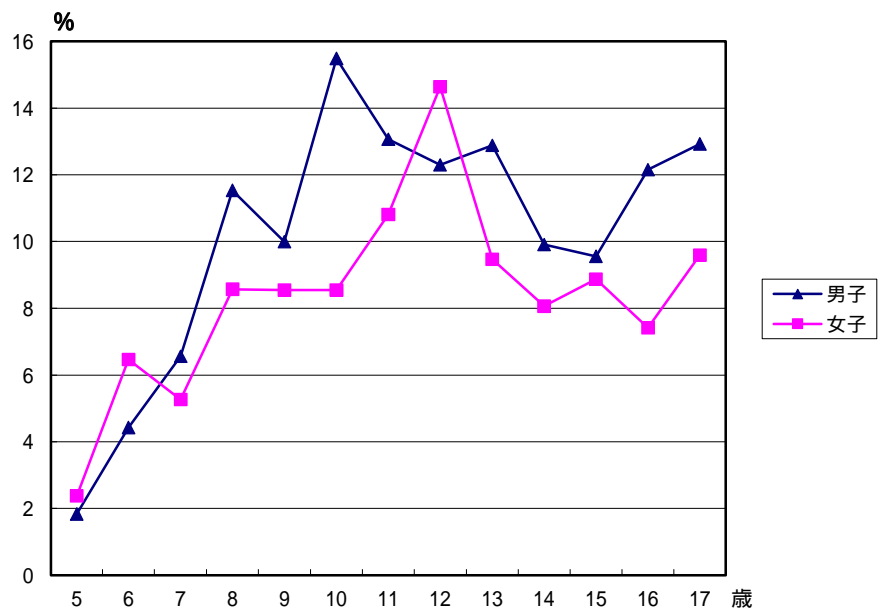
例えば、11歳男子の肥満傾向児の全国平均値13.95%とは、肥満度20%以上の者の割合が11歳児童全体の13.95%であることを意味している。

表4 肥満傾向児の割合(全国との比較)

(単位:%)

	年齢(歳)	令和4年度					
		男子			女子		
		全国	長崎県	差	全国	長崎県	差
幼稚園	5	3.56	1.84	-1.72	3.73	2.38	-1.35
小学校	6	5.74	4.42	-1.32	5.50	6.46	0.96
	7	8.02	6.56	-1.46	7.23	5.26	-1.97
	8	11.14	11.53	0.39	9.07	8.57	-0.50
	9	13.17	9.99	-3.18	9.57	8.54	-1.03
	10	15.11	15.48	0.37	9.74	8.54	-1.20
	11	13.95	13.06	-0.89	10.47	10.81	0.34
中学校	12	13.27	12.29	-0.98	9.51	14.64	5.13
	13	12.25	12.88	0.63	9.05	9.47	0.42
	14	11.31	9.91	-1.40	7.71	8.06	0.35
高等学校	15	12.51	9.56	-2.95	7.68	8.87	1.19
	16	11.13	12.15	1.02	6.98	7.41	0.43
	17	11.42	12.92	1.50	7.45	9.59	2.14

図5 本県の肥満傾向児の割合(男女比較) 令和4年度



## 2 健康状態

文部科学省の抽出方法が変更され、都道府県別表が公表された平成18年度から掲載しています。

### (1) むし歯(う歯) (図6、7)

#### 年齢別比較

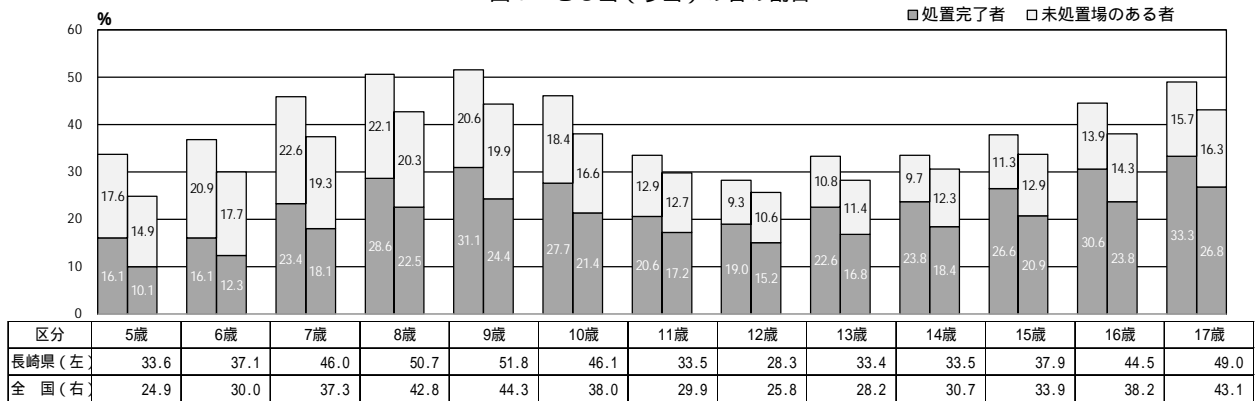
本県のむし歯の者の割合は、5歳から9歳までは年齢が高くなるにつれて増加し、10歳から12歳までは減少。13歳以降は、年齢が高くなるにつれて再び増加している。

9歳の51.8%が最も割合が高くなっている。

#### 全国との比較

むし歯の者の割合は、全年齢において全国を上回っている。

図6 むし歯(う歯)の者の割合

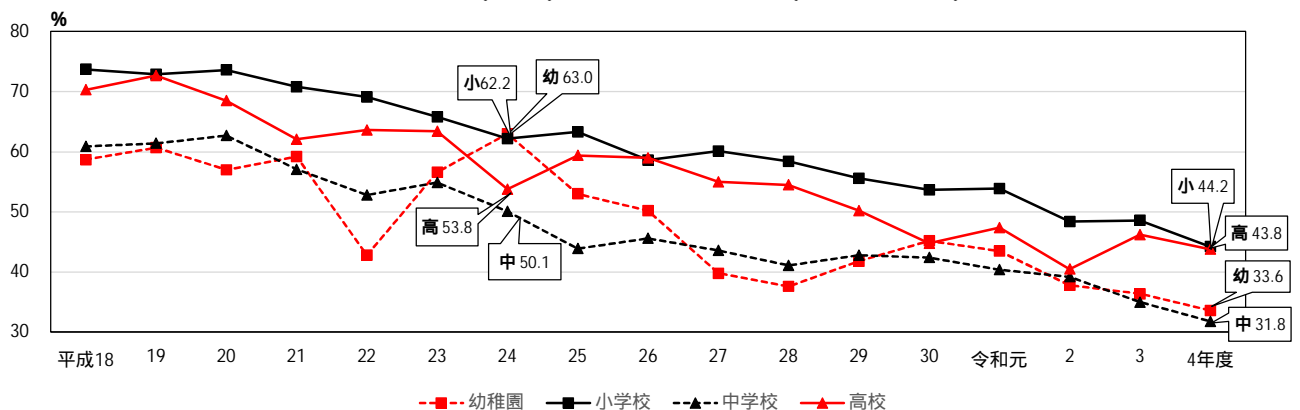


10歳から12歳において割合が減少するのは、乳歯が生え替わることが影響していると考えられる。

#### 各学校種別における出現割合の経年比較

いずれの区分も減少傾向にあり、10年前の平成24年度と比べると幼稚園は29.4ポイント、小学校は18.0ポイント、中学校は18.3ポイント、高等学校は10.0ポイントと大きく改善している。

図7 むし歯(う歯)の者の学校種別割合(長崎県の推移)



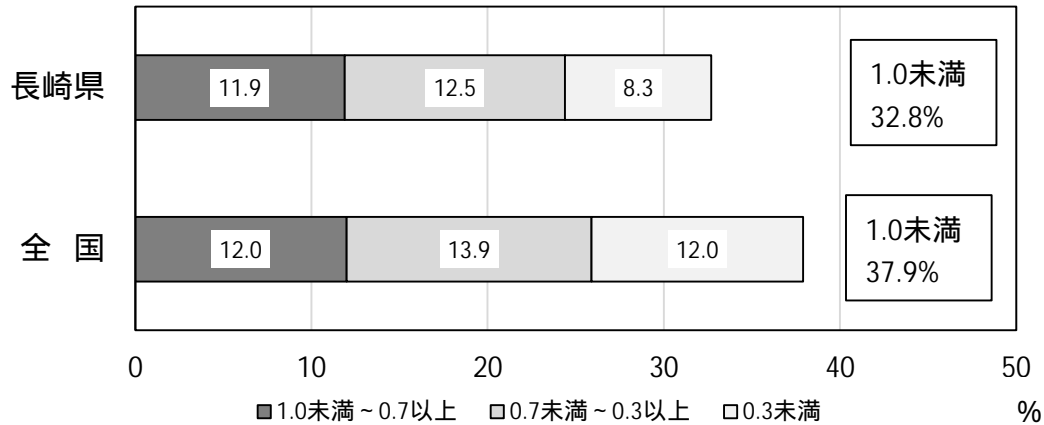
## (2) 裸眼視力(図8、9)

全国との比較

小学校の裸眼視力1.0未満の児童の割合は全国を下回っている。

また、1.0未満～0.7以上、0.7未満～0.3以上、0.3未満のいずれの区分でも全国を下回っている。

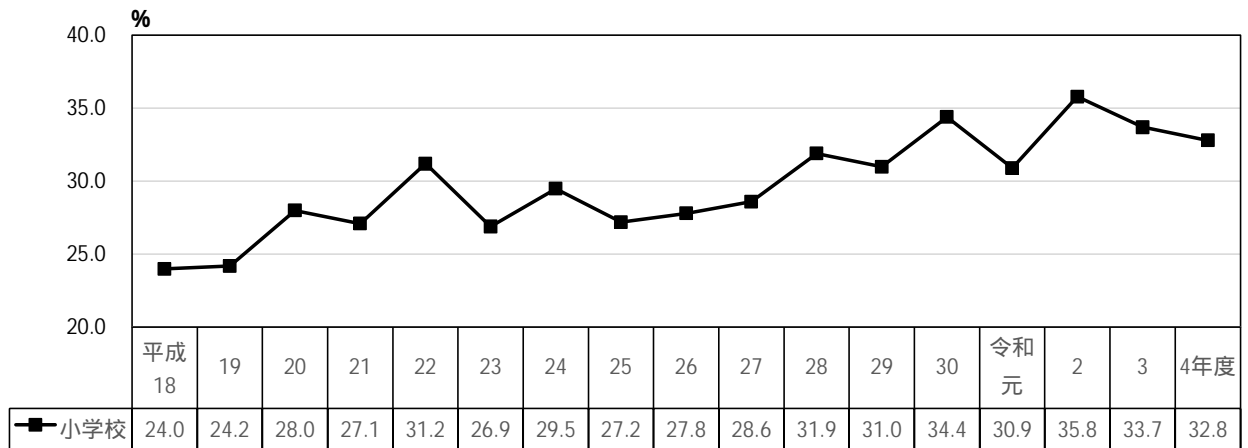
図8 裸眼視力1.0未満の者(小学校:長崎県、全国)



小学校における出現割合の経年比較

小学校の裸眼視力1.0未満の児童の割合は概ね増加傾向にある。

図9 裸眼視力1.0未満の者の割合(長崎県小学校の推移)





### (3) アトピー性皮膚炎(図10、11)

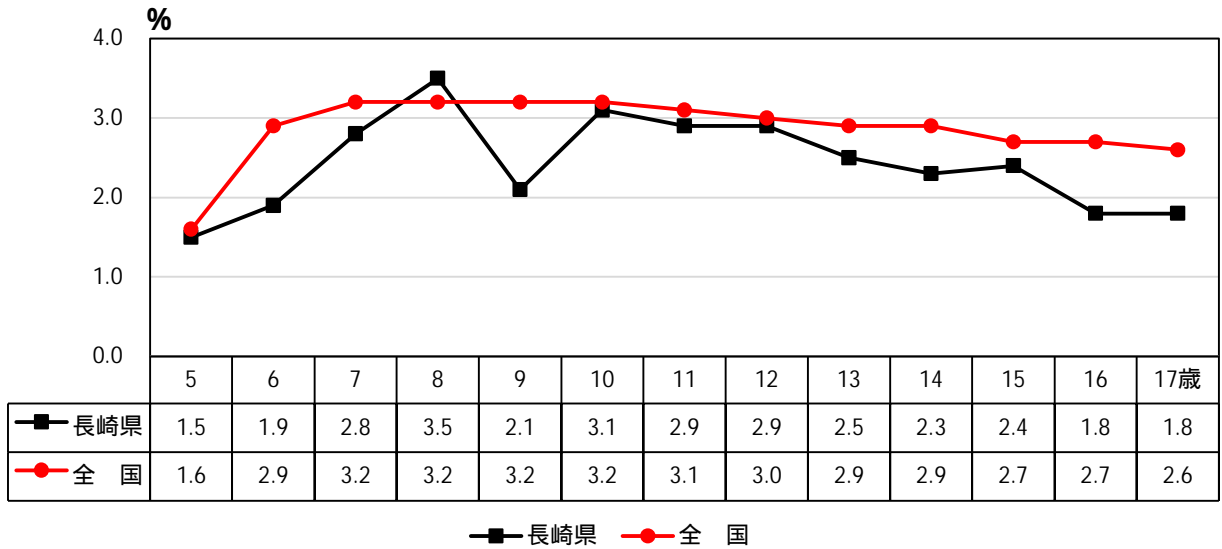
#### 年齢別比較

本県のアトピー性皮膚炎の割合は、8歳の3.5%が最も高く、5歳の1.5%が最も低くなっている。

#### 全国との比較

8歳を除く全ての年齢で、全国を下回っている。

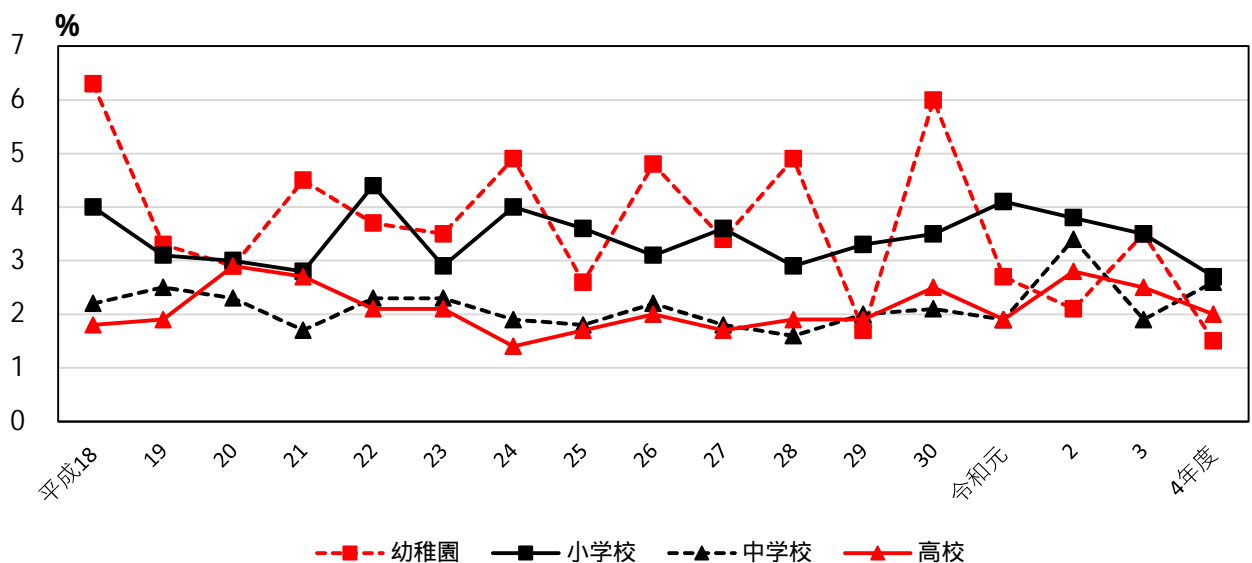
図10 アトピー性皮膚炎の割合(年齢別:長崎県、全国)



#### 各学校種別における出現割合の経年比較

幼稚園において、割合にばらつきがあるが、それ以外の学校種別では、ほぼ横ばいで推移している。

図11 アトピー性皮膚炎の学校種別割合(長崎県の推移)



#### (4) ぜん息(図12、13)

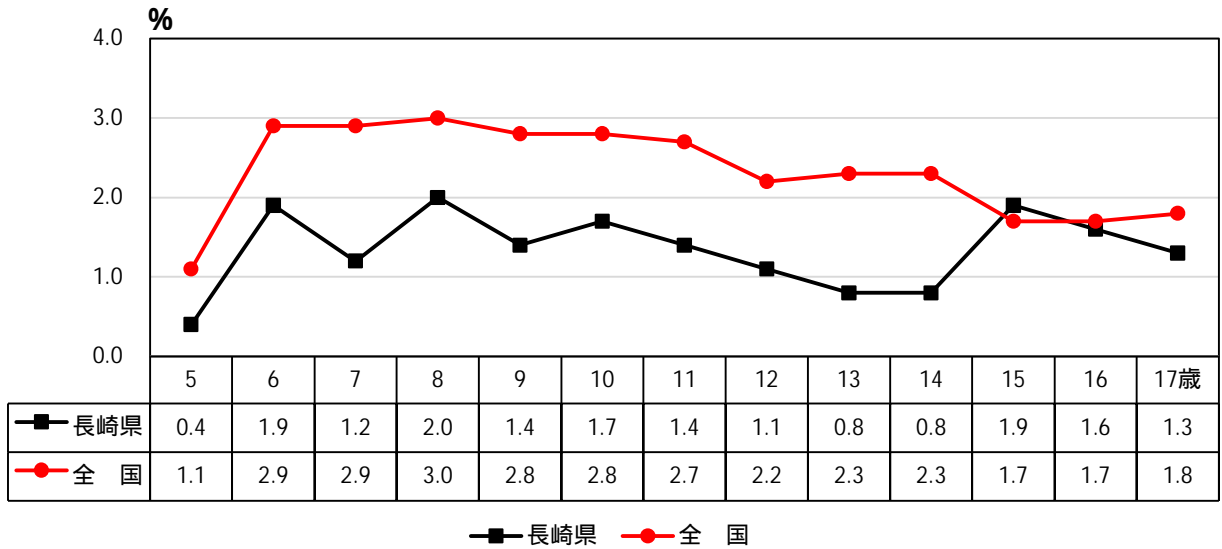
##### 年齢別比較

本県のぜん息の割合は、8歳が2.0%と最も高くなっている。

##### 全国との比較

15歳を除く全ての年齢で、全国を下回っている。

図12 ぜん息の割合(年齢別:長崎県、全国)



##### 各学校種別における出現割合の経年比較

幼稚園において、割合にばらつきがあるが、それ以外の学校種別では、ほぼ横ばいで推移している。

図13 ぜん息の学校種別割合(長崎県の推移)

